

平成29年度 事業報告書

特定非営利活動法人 くすの木自然館

3年目を迎えた「重富海岸自然ふれあい館」の管理運営を大きな柱とし、鹿児島県が先駆的に始めている「景観学習」のモデル校の実践指導、エコツアーや環境保全地域づくり実践等、目標としていた事業の内容を充実できた年度であった。

主催事業、物販などがまだ目標に及ばず、自主財源を得ることの努力が足りない面も明らかになっており、次年度の新たな事業計画の指針としていきたい。

【主な事業】

① 「重富海岸自然ふれあい館 なぎさミュージアム」委託管理運営業務（環境省）

3年目となる事業。地域に根差した環境省展示施設としての役割を十分に果たした。海岸や干潟等の利用も、学校・企業・一般等、情報発信の内容をうまく切り替え、目標に達する内容の濃いよう実績を作ることができた。

② 「かごしま景観学習」（鹿児島県地域政策課事業）

鹿児島県が先駆的に取り組んでいる、小学校を中心とした「景観学習」のモデル校の指導実践。「景観アドバイザー派遣事業」の中でも、以前より強い要望のあった「義務教育での景観学習」の具体的な指導を行った。通年を通して行う山田小だけでなく、県内3校のモデル校をすべて指導した。周辺校への取り組みも進んでいるため、今後の事業拡大のための足掛かりとなる1年であった。

③ 企業との連携による事業

南日本新聞社、TOYOTAとの協働による「アクアソーシャルフェス」は、2年目を迎え、全国的にも大変評価の高いイベントとなっている。また、FM 鹿児島、コスモ石油との「コスモ・アースコンシャスアクト」を今年度、初めて重富海岸がで行い、多くの人に参加した。二イベントとも、大変高い評価を受け、今後の事業展開にもつながる成果を残すことができた。

④ 錦江湾学習会

主催授業として、毎月1回、開催してきた座学型イベント。講師や内容を充実させ、毎回、大変な人気を博した。くすの木自然館のもつネットワークを活用した「ならでは」の事業となった。

⑤ その他主催事業、物販

29年度の大きな課題として見えた事業。29年度は、助成金・補助金等がすべて落選し、自主事業や物販などの自主財源を増やさねばならない年であったが、目標に届かず、今後の課題が浮き彫りになった。